

はじめに

3月にはいって急に研修の話があり、佐々木さんは3月中の多忙な予定をやりくりして、アメリカへ出発した。約1週間の短い期間ではあるが、折角このような機会をあたえていただいたので、東海岸にある大学を中心に、彼が手がけている街づくりや、生涯学習に関連する調査と資料の収集をするためである。

地図をひろげてカリフォルニア州を見ると、メキシコとの堺にあり、ネバダ州の西側に位置して、縦長に太平洋に面している。ネバダ州の茶色がカリフォルニアの緑色に移り変わる様子を眺めていると、サンフランシスコに向かって流れ込む網目の様な青い線がある。

人間は川の周囲に集まり、街をつくり、都市をつくってきた。川はまたその国の歴史をつくり文化を築き上げてきた。

日本では江戸時代各藩の境界は川であり、また、米をつくる人達にとって我が田に水を引き込むために争いをおこした。川は洪水も引き起こすが、身近かに人間の生活にかかわり、例えば日本の絵画では、川や水はいつも人にゆたかな生命をあたえつづけるものとして表現されている。その他祭、詩歌、物語、漁業、食文化等さまざまなことに恩恵をあたえつづけてきた。

今、生涯学習は、日本人が人生を投影してきたこのような川の此岸と彼岸をつなぐ掛橋となるのだろうか。

＊

この研究報告は、前号に続き本センター専任教官佐々木英和の生涯学習に関する論文を中心に掲載し、また平成11年度に県教育委員会から派遣された研究生（林博子「高等学校教育で『生きる力』をどう育てるか」、岡安正弘「学校・家庭・地域社会との連携の可能性と条件」、寺内千明「生涯学習社会の観点に立った際の教員の専門性に関する一考察」）による学習及び研究の成果を報告いたしました。論文については平成12年度のもの、指導成果報告については平成11年度のもので作成しました。皆様のご意見や忌憚のないご批判をいただければあり難いと考えております。

宇都宮大学生涯学習教育研究センターは、大学の一機関として、本学で開講されている授業と同じレベルの講義を、自然科学、社会科学、人文科学の各分野にわたって準備し皆様に提供しており、また県や市町村の生涯学習と連携して講座の幅を広げて奉仕する態勢をとっています。学内、学外の皆様のご協力とご支援をいただきたく、よろしくお願いします。

平成11年4月から2年間、センター長を務めさせていただきました。本年3月をもって、定年により退官いたします。在任中にいただいた御協力とご支援に対し感謝し、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成12年3月

宇都宮大学生涯学習教育研究センター長

平 川 晋 吾